

[報告] 第21回歴史地震研究会参加記(研究発表会を中心に)

弘前大学人文学部人間文化課程* 白石睦弥

A report of participation in 21st General Meeting

Mutsumi SHIRAIISHI

Hirosaki University Faculty of Humanities, 1 Bunkyo-cho, Hirosaki-City, Aomori, 036-8560 Japan

§1. はじめに

私が鳥羽に入ったのは、研究会前日の2004年9月16日のこと。猛暑の砌、飛行機と汽車を乗り継いで北国からやってきた私にとって鳥羽は極暑の地であった。

私は現在弘前大学で日本近世史を専攻しており、昨年の国立歴史民俗博物館で行われた特別展「ドキュメント災害史」などから災害史に興味を持った。インターネットのホームページで歴史地震研究会の存在を知り、今回参加のはこびとなった。

§2. 第21回歴史地震研究会

9月17日から19日の三日間、三重県鳥羽市において第21回歴史地震研究会が開催された。1854年安政東海・南海地震、同年伊賀上野地震からちょうど150年。折しも去る9月5日にやや大きな地震があり、よもや東南海地震の再来かと肝を冷やしたところであった。また、その後の台風で大きな被害を受けられたともニュース等見聞した。被害に遭われた方々には心からお見舞い申し上げたい。

さて、その研究会の内容であるが、17日午後と18日午前には研究発表会とポスターセッション、18日午後には公開シンポジウム、19日には三重県内の歴史津波に関する史跡を見学する野外見学会という日程で行われた。詳細は研究会プログラムなどを参照していただくこととして、本参加記では私が参加した研究発表会と公開シンポジウムの様子について報告しようと思う。

2.1 9月17・18日:研究発表会・ポスターセッション

1日目の日程は午後からだったが、随分早く会場に到着した。会場は市民文化会館大会議室である。まずは受付をすませ、席を確保してから散歩にかけた。鳥羽駅から山側にある市民文化会館周辺の町

並みは道幅が狭く建物が密集していて、落ち着いた雰囲気だ。

会場に戻り、ほどなく発表がはじまった。1日目の発表内容は「各地の津波」と「三重県の地震と津波」。津波の波形解析や地震のメカニズム、堆積物からその成因を探るものなどがあり、発表は主にパワーポイントで行われ、数式やグラフがならび理解の難しいものも多くあった。

理学・工学・科学・地質学などはこれまで私が学んできたものとは全く異質の学問であり、避けて通ってきた分野でもある。そういった分野の発表を聞くことは、理解が難しく大変だった反面、楽しくもあり興味を覚えた。また、面白かったのは被災者が生存している比較的新しい災害についてのヒアリング(聞き取り)調査である。人間の感覚は全てが信用できるものではなく、(それをいうならば史料についても人間が記したものだから同様のことが言えるのだが)それによって例えば、理工学系のモデル構築のように震源を推定するようなことは難しい。しかし、社会学・民俗学のような分野や方向からのアプローチや参画が可能であるならば、また違った検討ができるように思う。

それまで私が考えていたのは、歴史地震や津波の研究において、歴史学は理工学系分野の下請けのような作業しかできないのではないかということであった。しかし、モデル構築やシミュレーションを行う際に材料として使用される文献史料は、その信頼性などをしっかり検討していく必要がある。今回の参加で学んだのは、歴史地震研究における歴史学のそのような役割である。西山昭仁氏によると、歴史地震研究会の人数比は格段に歴史学系が少なく、このような役割が十分に果たせていない部分があるのだという。これから少しでもそのような役割の一端を担えるよう努力していきたいと思う。

翌18日は「各地の地震・噴火」の内容で引き続き

* 〒036-8560 青森県弘前市文京町1

発表が行われた。前日同様に様々な議論が交わされ、非常に充実した内容であった。

また今回の研究発表会で、はじめてポスターセッション形式の発表(写真 1)を見たが、一般の発表の際には挙手して質問するのに抵抗があるような些細なことでも直接発表者に尋ねることができ、パワーポイントやスライドでは見づらい部分も近くで見ることができて大変良かったように思う。本研究会の発表は特性上どうしても文字だけの講演要旨では、わかりづらい部分があり、カラーで図表やグラフ、写真などを確認できるこの発表方法は私にとって非常に新鮮でわかりやすいものであった。問題点は、人気のあるポスターが見づらく発表者とも会話がしにくいことだろうか。

全体を通して、新しい発見が多く、多くの方にお会いでき、大変勉強になった研究発表会であった。



写真 1. ポスターセッション

2.2 9月17日:懇親会

1日目の日程終了後、バスで会場の戸田屋へ移動し、おいしいお料理をいただきながら多くの方にお話をうかがうことができ、大変楽しい時間を過ごさせていただいた。また、懇親会に参加するのをはじめだったので、右往左往しているばかりだったが、これまで著書などでお名前しか存じ上げなかった方々と直接言葉を交わすことができたことは望外の喜びでもあった。

2.3 9月18日:公開シンポジウム

18日の午後は、公開シンポジウム「三重県の歴史地震と津波を考える」が行われた。第1部は基調講演、第2部はパネルディスカッション(写真2)という構成で、多くの市民の皆さんが参加され、その興味や関心の高さがうかがわれた。また、挨拶された鳥羽市長の地震体験談も興味深いものであった。

基調講演は「東海・東南海地震と三重県」、「三重県の歴史地震と津波」、「1498年明応東海地震の津波被害と中世安濃津の被災」、「志摩国(現鳥羽市・志摩郡)の津波の記録について」の4本が行われた。それぞれにわかりやすく、内容も十分に市民の皆さんに興味を持ってもらえるもので、最後には多くの質問や意見が出され白熱したものになった。そのようなことから、市民の皆さんの地震・津波への関心の高さが見て取れ、市民の皆さんに貢献できたシンポジウムは盛況に終わった。



写真 2. 公開シンポジウムのパネルディスカッション

2.4 9月18日:総会

シンポジウム後、同会場内の会議室で総会にも参加させていただいた。活動報告や決算報告などの後、談笑も交えて議事が進行し、また、来年度の研究会や国際シンポジウム等について真剣な議論が交わされ、その場にいるだけで楽しかった。

来年度の研究会は安政江戸地震から150年ということで、東京で行われるようだ。どうやら、研究会は過去に大きな地震などが発生した場所で行われることになっているらしい。

その後、今回の研究会と来年度の研究会に思いを馳せながら帰途についた。

§3. おわりに:謝辞など

この度の歴史地震研究会に参加させていただき、大変勉強になりました。皆さまの親切なご指導により、非常に楽しく有益な二日間を過ごさせていただきました。心より御礼申し上げます。

また、研究会の運営や企画に携わられた皆様に敬意を表すると共に研究会に参加させていただき貴重な経験をさせていただいたことに感謝申し上げます。